

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立金立小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和7年4月17日（木）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

児童(生徒)に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的生活習慣、家庭学習の状況 など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

(2) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。

■ 教科に関する調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は、小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、算数・数学、理科に限られています。さらに、出題は、各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり、「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」「**どちらか言えば当てはまる**」と**肯定的に**回答した児童(生徒)の割合。

佐賀市学校教育ビジョンに関連する調査項目	本校 %	全国平均 %
学校に行くのは楽しいと思う。	66.7%	86.5%
将来の夢や目標を持っている。	77.8%	83.1%
自分には、よいところがあると思う	91.7%	86.9%
学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	88.9%	84.9%

「自分には、よいところがあると思う」の項目、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」の項目は、肯定的な回答をした児童は全国平均よりも高い結果が出ています。

家庭学習の様子に関する調査の項目	本校%	全国平均 %
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	8.3%	12.1%
「2時間以上、3時間より少ない」	11.1%	12.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	22.2%	29.1%
「30分以上、1時間より少ない」	33.3%	27.4%
「30分より少ない」	22.2%	12.9%
「全くしない」	2.8%	5.7%

家庭学習については全国平均と傾向は似ていますが、1時間未満の児童が5割以上おり、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。

(2)改善に向けての取り組み

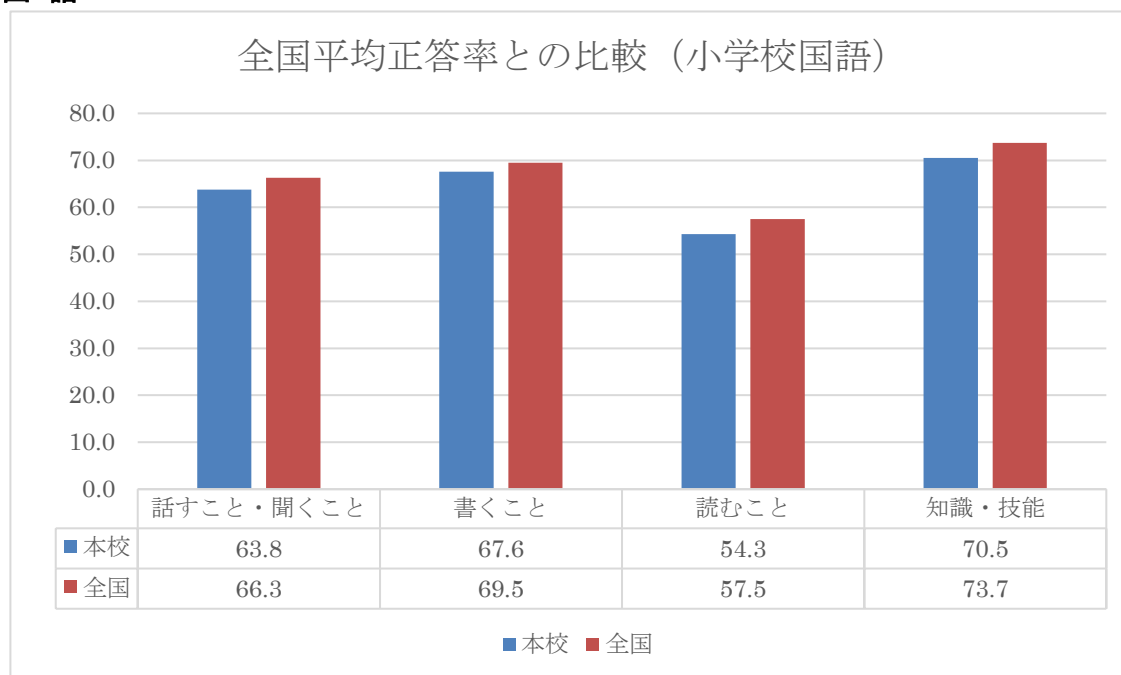
【学校では】

- 「学校が楽しい」の項目については、子どもたちが達成感を得られるような活動を仕組み、その振り返りをしっかりと行い、教師がそれを価値付けることで「学校が楽しい」と思えるよう取り組んでいきます。
- 「将来の夢や目標を持っている」の項目については、様々な場面で「出番・役割」を保証し、「承認」しながら子どものよさを伸ばす「開発的な取組」を行うことで向上することを目指します。

【ご家庭では】

- 雄飛学園（金立小・久保泉小・金泉中）の取組である、「まなざしカード」の取組を充実してほしいと思います。お子さんへの承認・励ましがあることで、さらに向上するのではと考えます。
- 「金立スタンダード」や「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間のめやすや、学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

2 国 語



(1) 結 果

ほぼ全国平均と同等の結果でした。「書くこと」「読むこと」は、県平均(65.8%、53.4%)を上回っています。また、無回答率は、全国平均よりも少ない問題が多いです。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「書くこと」「読むこと」は、全国平均を下回ったものの、県の平均(65.8%、53.4%)をそれぞれ 1.8 ポイント、0.9 ポイント上回りました。国語科の「思考・判断・表現」の観点で高い結果が得られたことは、普段の学習への真摯な取組が表れていると考えられます。課題は、「知識・技能」の観点の正答率を上げることです。正答率 70.5%は、全国平均正答率 73.7%を下回っており、苦手になっている児童がいます。主体的な学びの視点で授業改善を図り、言語の特徴や使い方、情報の扱い方などを練習することで児童の力を伸ばすことにつながると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

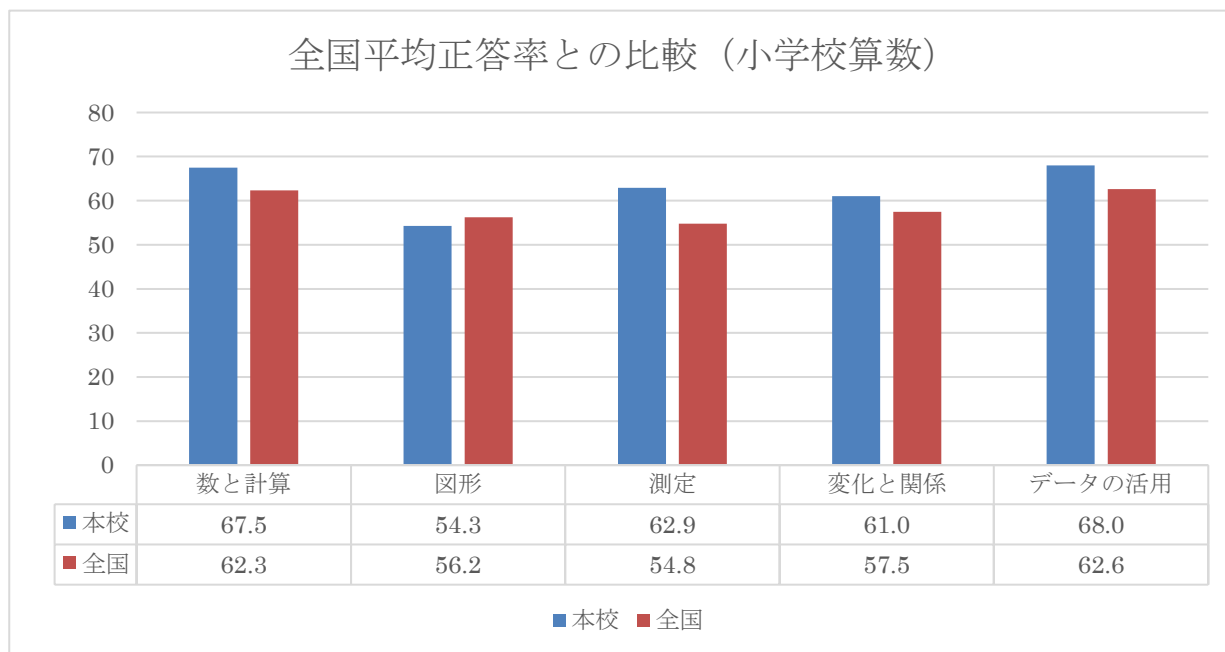
【学校では】

- 教師一人一人が授業の在り方を工夫・改善することで、子どもが主体的に、話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることもつながります。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。図書館や本屋に定期的に行くことも、お子さんの読書習慣をつける上でおすすめです。

3 算 数



(1) 結 果

「図形」の領域を除いて、全国平均を上回りました。特に「測定」の領域では、8.1 ポイント上回りました。また、無回答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「図形」の領域を除くすべての問題の正答率が全国平均を上回っていました。基礎的な力を付ける取組や話し合う活動を取り入れた取組など、普段の成果が表われました。「図形」の領域で低かったのは、「五角形を二つに分割し、それぞれの面積の求め方を書く」という記述式の問題の正答率が全国平均を下回っていました。今後、図形の観察や操作活動などを通して、図形の意味や性質を考えることができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

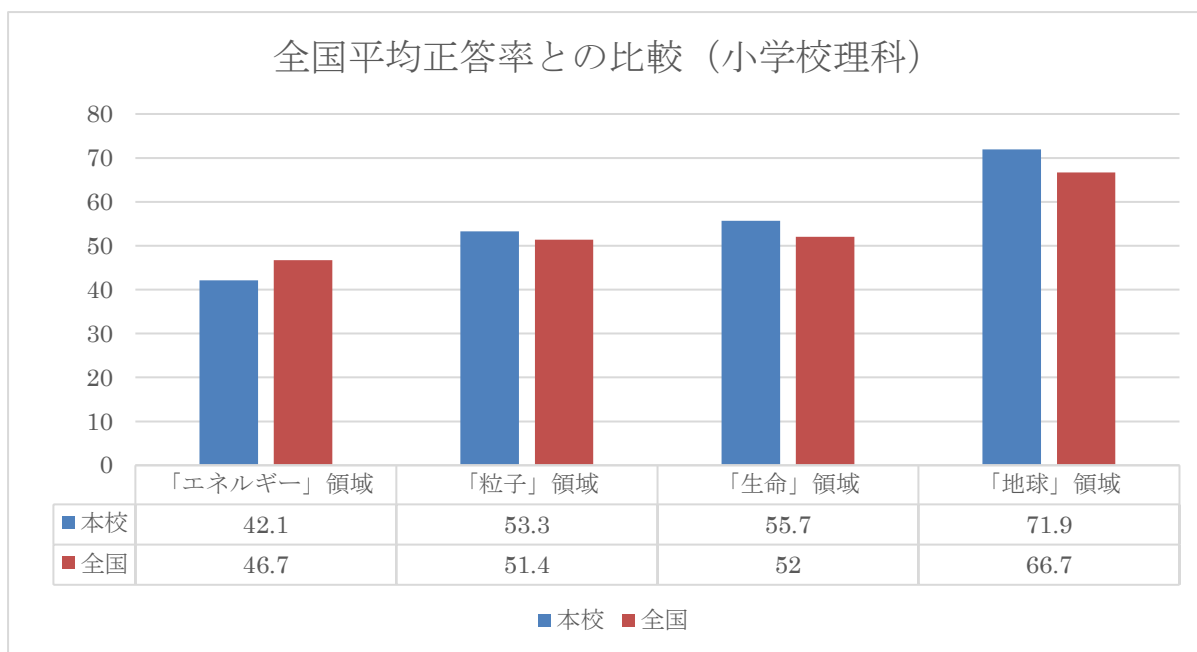
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を往還させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数を好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身の回りには算数を使えるものがたくさんあります。

4 理 科



(1) 結 果

「粒子」「生命」「地球」の領域で全国平均を上回りました。また、無解答率を見ると、ほぼすべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「エネルギー」の領域が下回っていますが、「電磁石のコイルの巻数の変え方を記述する」問題は全国平均を 7.7 ポイント上回っていました。また、全体では、「粒子」「地球」の領域である「水の結露」の問題が全国平均を 13.9 ポイントも上回っていました。課題が見られたのは、「エネルギー」の領域で「身の回りの金属で電気を通すもの、磁石を引きつけるものがあることの知識」28.6%（全国 42.9%）、「乾電池の直列つなぎに関する知識」48.6%（全国 55.1%）を問う問題でした。3・4年生で習った事項を応用させた問題であり、既習事項をもう一度丁寧に復習することが重要だと捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」という経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。